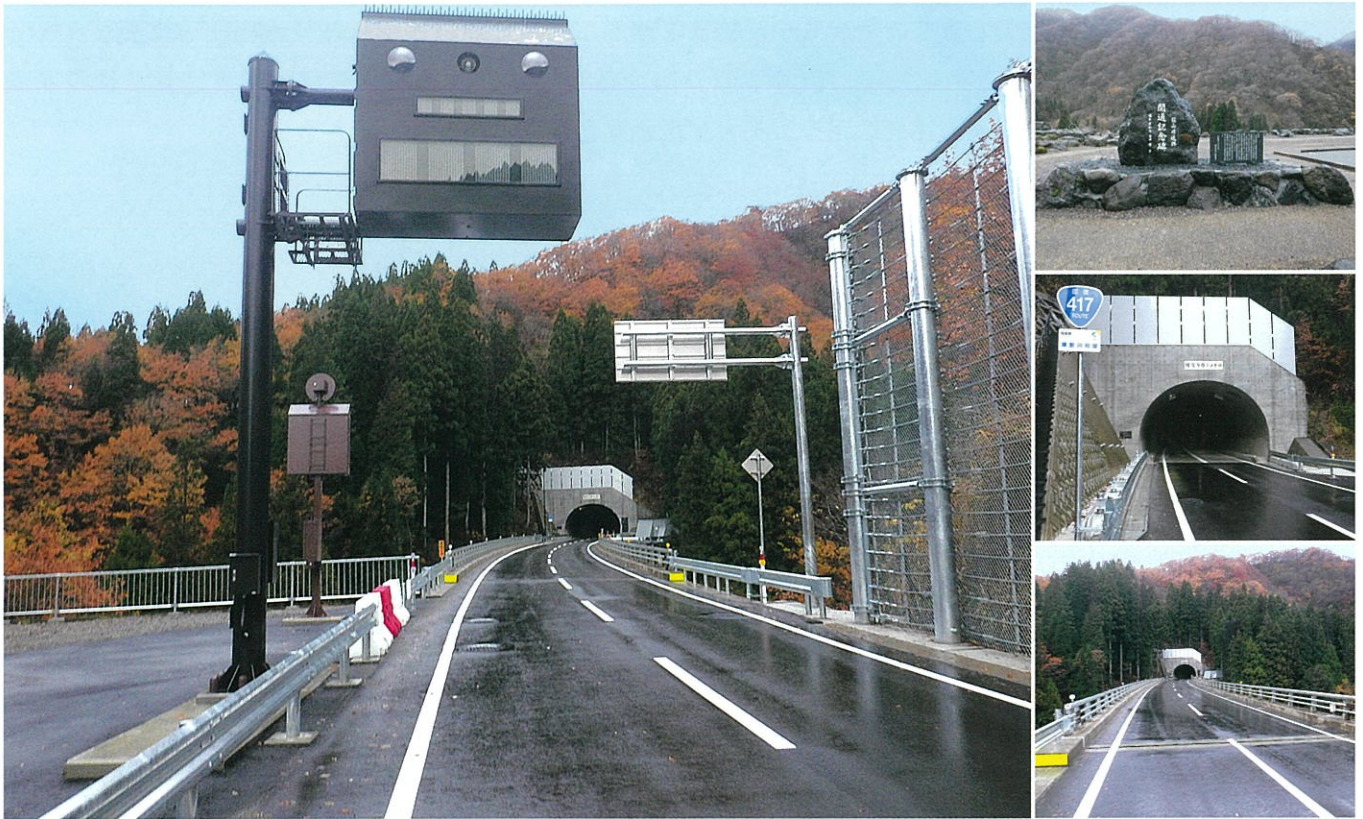


## 第48号

一般社団法人  
岐阜県道路交通安全施設業協会

TEL <058> 273-8566  
FAX <058> 275-3620  
E-mail: grs@nifty.ne.jp

# GRS ぎふ



国道417号 冠山峠道路

## LKAS (車線維持支援システム) と区画線の整備推進



会長  
江島 権司

全国の交通事故死者数の状態別集計において、自動車乗車中の死者数は、道路環境の整備、車両の安全装備の普及もあり、近年減少傾向にあります。歩行中の死者数(36%)に次ぐ割合(33%)を占めています。さらに、その事故類型を見ていくと、「車線逸脱による正面衝突」による死亡事故が突出して多いという分析結果が

出ています。

歩行者を守る交通安全対策については、千葉県八街市、滋賀県大津市で起こった痛ましい事故を契機に、岐阜県内においても交差点防護柵の整備や通学路点検を踏まえた安全対策を実施し、更なる整備・拡充が進められていますが、一般道における車両の正面衝突事故が死亡事故につながりやすい点への着目も必要だと感じています。

以前は交通事故の多い箇所といえば、急なカーブであったり、見通しの悪い交差点といった明らかに危険

が潜んでいる箇所が挙げられましたが、近年の事故傾向として挙げられるのは、見通しの良い直線部であったり、緩やかなカーブといった普通の道路形状での事故が増加傾向にあるということです。直線道路を真っ直ぐ走っていたら、反対車線から車が突っ込んでくる、いつどこで事故が起きてもおかしくない、非常に恐ろしい状況です。要因は様々ありますが、脇見運転、ながら運転など、明らかなドライバーの瑕疵が主因となって、車両の正面衝突事故、歩道への突入事故が起きています。

近年、車両の安全装備の進化は著しいものがあり、標準装備化が進んでいます。一般道路でその進化を感じられるのは、自動ブレーキと並んでLKAS(車線維持支援システム)だと思います。この機能は、道路の区画線とアスファルトのコントラストをセンサーで感知することで作動します。先に挙げた、「明らかなドライバーの瑕疵」から命を守るためにも、車両の安全装備の進化・普及と、その機能を十分に発揮するための環境整備として、県内の区画線を一定以上のレベルで明瞭に維持することが肝要だと考えます。